第4回向日市民温水プールあり方検討会議 会議録

日 時 令和6年3月26日（火） 午後4時から午後5時40分まで

場 所 永守重信市民会館1階 第1会議室

出席者 (委員)
松永委員、木村委員、藤田委員、大川委員、梅田委員、高橋委員
黒木委員、近藤委員、長谷川委員、山本委員

(事務局)
山田市民サービス部長、浅田同部副部長、安田同部副部長
田口地域福祉課長、大山同課主任

傍聴者 6人

1 開会

2 議事

(1) 前回会議の内容と今後の会議進行の流れについて

事務局 (資料に基づき、事務局より説明)

会 長 前回までに、プールに関しては、縮小する形で整備をしていくというところ、その縮小の規模についてはイメージを共有しながら今日議論ができるように、別紙のところ、決定ではないですが、イメージの共有のために縮小した場合のパターンとして別紙に1～8のところに資料をご用意いただきました。

今日は、その整備をしていくにあたって必要な整備内容について、ご意見を主にいただくこととなりますが、次回、最終回のときに、今日の議論に基づいて、そのコンセプトを実現するために必要な事項を固めていく中で、どのぐらいまで機能を持たせるのかによって、建設・運営手法の検討も影響してくるというところもありますので、今日はぜひ具体的なコンセプト整備の内容の整理から、実現に必要な事項というところでご意見をいただければと思っております。

既にいただいているご意見もあるかと思いますが、この会議は、あり方の検討委員会なので、ここで決まったことが、すべて実現される訳ではなくて、方向性というところで最終回の時にま

とめていきたいと思っておりますので、今まで言った意見も含めて今日ご意見いただければと思っております。これまでのまとめのところと、今回と、次回の進め方についてご質問等はございますか。

よろしいでしょうか。この後の説明でも若干振り返り、皆さんのご発言いただいた内容をすべて網羅していただいておりますので、再度進め方等に戻っていただいても大丈夫ですので、一旦進めさせていただきます。

(2) プールの整備について

会 長 前回の会議までのご意見と、前回の会議後に寄せられたご意見についてご紹介がありました。

まず、追加すべきコンセプトというところで、先ほども、例えばというところで、4ページのところでは、環境に配慮した施設というような、例示がありましたが、具体的な整備については、後ほど説明がありますが、コンセプトについては、整備と若干重なりがあるかもしれませんが、この学校プールとして活用することを前提に市民温水プールを再整備するということと、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できる施設とするというコンセプトに並ぶものが決まると、この後の細かい話に移っていくということになりますので、コンセプトとして思い浮かぶものがあれば、皆さんで議論していけばいいと思っております。

委 員 皆さんの中で、プールのコースが何コースあるのか、プールの大きさのイメージが揃っているのかということを感じています。

それに、幼児用プールの規模を縮小する訳にはいけないというふうに思っていて、学校のプールとしての利用やレッスンのコースが入ったりすると、プールに行っても入れないというようなことが起こってしまうので、やはり今のプールの規模は必要かと思っています。

幼児プールの水深についても、安心して水遊びができることが大事だと思っていて、以前の市民プールは、水深が深かったので、幼児用プールと2.5mプールと一体的に利用できるようなすればという意見については、水深のところで不安があると思っておりますし、高齢者の方や障がいのある方にとっては、若干深めな水深ではあったのではないかと思っております。

あと、ジャグジー、採暖室、温浴施設、欲を言えば、お風呂があったほうが良いとは思いますが、健康増進センターで却下されました。それを再生することは無理かなと思っておりますのでジャグジーがあればよいのではないかなというふうに思います。

会 長 プールの具体的な内容については、後ほど説明があるので、ご発言いただいた部分でコンセプトというところでは、幼児や障がいのある方というキーワードを出していただきましたが、このプールのコンセプトのところでは、子どもから高齢者まで幅広い世代のことしか書いていなくて、障がいのある方のことについては言及していません。世代だけではなくて、ダイバーシティやインクルージョンも含めて、幅広い人たち、市民に使っていただくというコンセプトは、追記が必要かなというふうに伺いました。

 サウナ等の話については、後ほど説明がありますが、重なってもいいので、またご意見いただいて最終的には皆さんで、また議論を深めていきたいと思えます。

委 員 子どもから高齢者まで幅広い世代が利用するというのは、分かるのですが、子どもという定義を絞らないといけないと思う。一般プールと幼児用プールを別にすると、それだけスペースが必要になってくるので、私はそこまでは必要なのかなと思えます。プールの中に台を沈めて、底上げするようなもので調整できるのであれば、幼児も使えると思う。

 利用についても、例えば、運用で日を分けるとか、午前と午後と分けるとかいう形ですれば解決するのではないかなというふうに考えております。

会 長 重要なお指摘ありがとうございます。

 子どもの定義ですね。その前に障がい者というキーワードが出ていますが、この後の整備のところには大きく関わってくるコンセプトになりますので、ここで決定ではなくて、この会議体としては、どこまでを対象にしたプールにしていきたいのかというところについての方向性は、確認をしたいと思っております。

委 員 以前のプールの仕様では、幼児用プールの乳児用の部分が、大体10センチから15センチの深さで、幼児用プールの方は、大体60センチから75センチぐらいの深さになっていたと思えます。乳児用と幼児用の間に仕切りの柵があって、一般プールには車椅子で入っていけるようなスロープがあるという形には今なっていたとは思いません。

会 長 一般的なプールを作るときにも、基準みたいのものがあると思うのですが、市民プールとして作る場合、乳児は対象にしている方が圧倒的に多いなど、そのあたりの情報は何かありますか。

事務局

あくまで一般的な議論という形に、他市町村を見ていくと、やはり乳児という限定した形になりますと、やはり限られた施設規模になった場合には、なかなか厳しいものが正直あるのかなと思います。施設規模が大きい施設であれば、世代ごとのものがプールとして整備されていますが、規模集約した施設になると世代的には限られてくるのかなというのが正直なところですよ。

会長

幼児以上の60センチは、スタンダードで、乳児に関しては、やはりその市町村によって、あるいはプールの目的によって、乳児に関しては、施設の整備上、そこを外すというか、その機能を持たせないという選択をする場合は、比較的あるっていう理解ですね。乳児に対して、軽く見ているということではなくて、市としてプールの機能を考えていくときに、乳児も含めて、総合計画の子育てなどとの兼ね合いも出てくると思うのですが、それを整備に入れるか、入れないか、コンセプトに入れるか、入れないかというのは、市の方針としても、大きな影響というか、リンクしてくるお話かなと思います。

市の方針とかがあれば、ここだけの一存ではなかなか決められない部分もあると思うのですが、ただ、今回、小学校、中学校、特に小学校のプールがメインとなったときに、考え方としてやはり、今回は幼児以上、でいきましょうっていうのは、あるのかなと思います。このあたり委員の皆さんとしての立場で、何かご発言があれば、お願いします。

委員

やっていることは、リスクをどれだけ回避するかということだと思います。いろんな人が来ることで、それだけリスクを伴うので、例えば、障がい者であったり、乳児であったり、指定管理の話になるかもしれませんが、監視員の人件費をどれだけ掛けるのかとか、例えば、乳児から高齢者までっていうコンセプトにしてしまえば、それで運営しなくてはならないという縛りになってくるので、その運営方法で雇用しないといけなくなります。指定管理の中でも、ここに対応してくださいという契約条件にはなると思うので、そこまで対応できる予算が取れるのかどうかも運営の一つとなります。

箱物を作って、その建物を運営して維持管理するというのも、費用面で大変ですし、プールの事故は、命に関わってくる。そういうことになるので、例えばコンセプトを作るのであれば、その辺までしっかりと、その議論をしていかなければならないと思う。

いろんな幅広い方に、利用してほしいし、たくさん使っていたくと盛り上がって明るくなるので、たくさんの方の市民の方に使っていただきたいというのはあるんですけど、それだけ事故が増え

てくるので、やっぱり人の命がかかってくるので、そこはしっかりと議論していった方がいいんじゃないかなと思います。

会 長 子どもの定義というご質問あったのですが、乳児の対応というところで、特段強いご意見を今までいただいていた訳ではないので、この「子ども」というのを、例えば今のお話でいくと幼児以上ということ、皆さんのイメージを統一させていただければいいのかなというふうに思っています。この後、説明がありますが、幼児用のプールについては、事前に要望をいただいていますので、子どものところを、幼児から高齢者までとして、プールのコンセプトの書きぶりも世代だけではなく、多くの市民が利用できるという認識で、コンセプトの方向性としてはよろしいでしょうか。

委 員 この会議が始まったときに、施設の規模が大きい、永続的に使えないということで問題があって、こういう会議が始まったと私は認識しています。この規模を大きくするのであれば、それがずっと今後、永続的に施設が使える状態に維持管理ができるというのを付け加えていただきたいと思います。

 そうしないと、同じ話が何年か後に、また子どもたちや次の世代の時に同じ結果になると思う。

 永続的に維持管理ができる継続的な施設を基本として考えていただける方向でお話が進んでいけばいいかなと思います。

会 長 改修工事等も最小限になるような、ある意味、永続的というところでいくと、先ほど経費のご説明もありましたが、この会議の中でも、財政状況を細かくご報告もいただいていますので、このプールが永続的に使用できる観点をコンセプトに盛り込み、この後の整備のところでは、色々な機能があった方がいいに決まっていますが、必要最小限、本当にこのプールがずっと運営されていくという視点で、整備内容を考えていくという点においては、非常に重要なご発言かなというふうに思います。

 子どもの数も減り、向日市さんは比較的、プラスの要素もいろいろあるので、悲観的な部分だけじゃないかもしれませんが、一般的には、財政が厳しくなったときに、健康の部分は比較的あまりカットされないのですが、スポーツの部分は比較的予算をカットされやすいですが、健康に資するということもありますので、せっかくプールを縮小という形で残すということを決めていくわけですから、他の市などでプールはあるのだけれども、結局、運営しないという選択肢を取っている自治体もありますので、そうならないように、縮小でも作るのであれば、持続可能な

施設であるとかというのは、皆さんにもイメージは伝わっていると思います。

資料にもあるように、今のこの時代では当然のことなので、環境に配慮しつつ、持続可能なとか、あるいは永続的に、市民に使用していただけるような施設というものはコンセプトの一つに追加するっていうところで、そこはよろしいでしょうか。

その他、コンセプトのところで、幼児から高齢者に加えて、障がい者という文言を入れるのか、入れないのかっていうところはあるのですが、障がい者という文言入れなくても、ユニバーサルデザインというのは、もう当たり前になっているので、特段、障がい者に特化したってなると、障がい者スポーツセンターなどの施設も別途ありますので、一般的に今言われている、ユニバーサルデザインというものにはもう対応するっていうところについては、幅広い市民が使用できるというところで、カバーできるのかなというふうには思います。

委員 以前のプールの時には、重度じゃなくて障がいのある方たちは、ボランティアの人たちと参加されていたのを見受けました。ボランティアではダメなんですか。

委員 ボランティアにすると保険が下りない。何か事故あったときに、どこが責任をとるかになる。そのリスクはどうやって回避するか。命のリスクなので、ボランティアに頼ってしまうと、ボランティアがいない限り、障がい者は使えないということになってしまう。先ほど言われるように、永続的に使おうと思ったら、常に行ける形にしとかななくてはならない。そうなってくると、費用も高くなる。以前の温水プールは、27年しか運営していない。同じような感じでいくと、30年後に同じ議論になる。一番スリムなプールというのは、やっぱり学校プールで、前回の資料のように50年使っている。学校プールのような形にすると長く使えるんじゃないかというのが、議論になってくるので、そこって結局、どうしていくかっていう話なので、やっぱりランニングコストと、市の財政、市民規模も考えてっていうことの計算がないと、多分しんどくなってくると思う。

委員 以前の幼児用プールは、2種類あってとても立派でした。それをコンパクトにして同じように整備していけば、子育てにいい街ですよというのを売りにして、いっぱい市民に入ってきてもらいたいという思いもあるはずなので、せっかくプールを整備したのに、幼児用プールがなくなったのかみたいなマイナスイメージではなく、小さくてしてでも作っていただけたらと思います。

会 長 幼児用プールに関しては、この後の整備のところ、残せる可能性は十分あるかなというふうに思っているんですけども、ただ一方で、今のお話のように、もう学校プールがメインみたいになると、今のコンセプトのところ、もう小学生からみたいなイメージになるので、このコンセプトやっばりとても重要で、もちろんシンプルにするにした方が、永続性はあるんですけども、一方で今お話があったように、住みやすい向日市といったときに、残さないといけない部分の兼ね合いで、最終的には、この会議ですべて決定するわけではないんですけども、皆さん市民の代表で、今日はいろんな意見をいただいていたかないといけないので、一旦、幼児から高齢者というところと、あと障がい者用のプールに特化してしまうと、いろんな設備をつけないといけないので、今お話があったように、例えば、教室やイベントなどで、障がいのある方が使えるような体制を整えるといったことは可能になると思うので、一般的なユニバーサルデザインっていうところは、それもどこまでやったら障がい者の方が使っていただけのレベルなのかっていうのは、これからまだ詰めていくことになると思うんですが、大々的に謳うというようなイメージではないという認識で、障がい者というところは、あえてここには書かないですけども、条件を整えば、使っていただくことが可能だという施設にはしていただくというところでよろしいでしょうか。

委 員 コンセプトのところ、学校プールと書いているので、そこが基準になる。前回までの議論でいくと、そこは外せない、他の年齢をつけてくると膨らんだイメージとなる。

会 長 学校の授業で使いますよというところですね。なので、あくまでも、おっしゃるようにも学校のプールとしてだけメインに考えて、それに合わせて使える人が使うみたいな考え方ももちろんないわけではないと思うんですが、おそらく学校の授業は、優先的にその時間に使うということでそれ以外のところでもおっしゃっていただいたように、レーンが全部授業でふさがれるわけではないと思いますので、学校のプールとして活用するということは前提ですけどもあくまでも市民温水プールっていうところですね。子どもたちが使いやすいというところは、コンセプトの中では考えておかないといけないけれどもそれだけではないという認識です。

委 員 プールのコンセプトの1行目の「学校プールとして活用することを前提に市民温水プールを再整備する」という記載がいない

のではないか。小学生も市民なので、コンセプトは、「全部の市民が使えるプールを再整備する」ではないか。その中で、学校のプールとして使いますよというのは、活用方法の問題だと思う。

会 長

おっしゃるとおりで、多分学校プールが前に出ているのがややこしいですね。おっしゃるように、1番目と2番目を引っ付けて、幼児から高齢者まで、市民が活用できる温水市民プールでまとめていただいて、でも一方で、向日市さんにとって、学校のプールとしてこれを使うというのは、非常に大きな話ではあるので、コンセプトの2番目ぐらいには、やっぱり入れといた方がいいのかなっていうふうには思います。この書き方だと、学校プールありきみたいな感じですが、まずは市民温水プールを学校の授業でも使いますよというコンセプトも残しましょうというところですか。今、ご指摘いただいたところでいくと、ちょっと順番は入れ替えるということ、永続性というところ、環境に配慮したということと、ユニバーサルデザインも含めてということですね。おそらく、次の話もかなり関連しているのですが、コンセプトの後から整備を考えていく中で、コンセプトに戻っていただいても大丈夫だと思いますので、一旦、具体的な整備のところにきていただいて、また必要があれば、コンセプトに戻ることもさせていたいただきたいというふうに思いますがよろしいでしょうか。

それでは、次の「プール及びプール以外の整備内容について」の説明をお願いします。

(3) プール及びプール以外の整備内容について

事務局

プール及びプール以外の整備内容について説明させていただきます。資料2の9ページ、10ページをご覧ください。9ページに、これまでのご意見を踏まえ、検討すべき整備内容をそれぞれ項目として記載しております。委員の皆様には、それぞれを必要なもの、検討を要するもの、設置、導入しないものに分類いただければと存じます。なお、整備内容の各項目については、色分けをしており、例えば、25mプール（授業に必要な広さ）については、青色としておりますが、これは、この項目自体が、必要なものと明確に分類することができるので、分類先の「必要なもの」と同じ青色とさせていただきます。その他の項目については、ご意見が分かれるかと存じますので、すべての項目を分類先の「検討を要するもの」と同じ、オレンジ色としております。10ページもご活用いただき、それぞれを分類いただければと存じます。

会 長

例えば、2段目に書いてある「スロープ入水時用」については、絶対にあつた方がいいものなのかどうか。学校のプールで考えると通常ないものだと思います。このあたりのところは、専門じゃないとちょっとわからないというのもあると思うので、ここで全部決定したことが決定ではないので、これは絶対に必要だろうというものや、これは機能として残しましょうみたいなもの、これは絶対いらないでしょうっていうものに分けられると思います。検討が必要なものは、意見が分かれると思うので、皆さんに、必ず1回はご発言いただいて、ちょっとここで最終決定ではないのですが、おおよそ皆さんのご意見をまとめていくのと、次回、どういった運営の手法になっていくのか、建設の手法になっていくのかということが見えてくるとと思いますので、1人1回は必ず発言してください。

委 員

やっぱりこの話の発端というのが、建設費用が高くなったりであるとか、維持管理コストが高くなったりっていうところなので、次世代に「負の遺産」を残さないようにというのが、大きい前提であつたと思います。そういう意味では、やっぱバランスが必要なかなと思つています。初期コストであるとか、今後5年とかじゃなくて、10年、20年、30年、40年、50年と見たときに、その先の世代の方々が、問題なく続けていけるような施設であるっていうのが大切だなと思つています。

9ページのもので、それぞれ本当に必要なのかどうかとか、これを作ることでいくらかかるのかとか、維持管理コストがどう関わるのかとかがわからない中、意見を言うのが難しいところはあるんですけども、私が思うには、25mプールは必要で、幼児プールについては、今議論していたとおりで、どうかなというところで、意見を決めきれないところです。

駐車場については、タダで使い放題だつたっていうところに対して、駐車場の料金制導入が大切かなと思つています。あとは、高齢者の方が、たくさんいらっしゃる中で、スロープがなかったら、高齢者の方が入るのだろうかという心配があります。

私の中では、幼児用プールは縮小してくつつけるかどうか要検討で、25mプールとスロープ、駐車場料金制導入、このあたりが必要なものかなというふうに思つております。

委 員

まずスロープは、必要かなと思つています。元気な人でも、疲れてきてしんどくなつた時に、階段は、やはり危険かなと思つていますし、車椅子でご利用になられる方のためにも必要かなと思つています。

今までプールだけでは、やっていけなかつたので現状になつた

のかなと思うので、プール以外のものも、やはり何か必要だなとは思っています。誰に来てもらうか、どの世代に来てほしいか、今後続けるために、高齢者だけに絞っていいのか、障がい者だけに絞っていいのかというのはわからないので、そこは「幅広い」というところをコンセプトにされるのであれば、私は、乳児から障がい者の方まで受け入れられる設備であってほしいし、そういう向日市になってほしいなと思います。

会 長 その他のところもありますので、これまでの発言にないところをお話いただいても大丈夫です。健康増進センターが隣接しているので、例えば、ここを指定管理にしたときに、ここと同じ団体なのか違うのかによって、連携がとれるのか、とれないのかとか、細かいこと言い出すといろいろあるのですが、一応、隣接はしているので、例えばですが、多目的ルームも健康増進センターにあるような多目的ルームであれば、そちらを使えば良いわけで、プールの人が使うような多目的が、何か特別にあるのか、ないのかとか、ちょっとその辺り健康増進センターが隣にあるという前提で、ご発言いただければというふうに思います。いかがでしょうか。

事務局 多目的ルームの概念が、ちょっとわかりづらい部分もあると思うのですが、健康増進センターの設備といたしましては、1階のところで、受付カウンター、更衣室、休憩スペースやトイレがございます、2階にトレーニングルームと、多目的ルームという意味合いになるのかもしれませんが、スタジオという形で部屋が2つあります。

会 長 部屋の大きさはどれくらいですか。

事務局 この会議の会場より少し小さいぐらいで、3分の2程度の大きさのものが、2つぐらいあります。キッズダンスやフラダンスなど、様々なご講座等を受け入れられている状況です。

会 長 そこは会議室とかでも使えますか。それとも、スポーツ、運動だけですか。

事務局 現状、貸館という形ではなくて、あくまで指定管理者の自主事業の中で使われる様々なプログラムのメニューを提供する部屋という形になっております。ここで言われている誰もがすぐ使えるような多目的ルームというのは、使い方としては違います。

委員 プールに会議室がありましたよね。あの会議室は、使用されて
いましたか。結局無駄で、あまり使っていないような気がします。

事務局 プールにも会議室がありましたが、あまり使われてなかったと
いう実績があります。

会長 健康増進センターには、会議室として使っているものでなく
て、プールの施設には、会議室があったけども、結局会議室とし
て使われてないということですかね。

多目的ルームがあれば、会議室にも使えるし、ちょっとした
運動するスペースにもなるという考えもあれば、健康増進セン
ターの方のスタジオを使えばいいやみたいな、考え方だったら
こっちに、それはいらんってという考え方もあるかもしれない
ってことですね。

多目的ルームの話だけになってしまうと時間も限られてしま
うので、縮小というところの兼ね合いで、フリースペースみた
いなものがあるのもいいのではないかと、なくてもいいみたい
なところで、またご意見があればお願いします。

委員 今議論した話ですが、「こういうスペースがあってもいい」と
いうよりも、今現在使ってなかったということは必要ではないの
ではないかと私は考えます。極端に言うと、どれだけコストを
かけないで考えるのも一つかなと私は思います。

それに、幼児から高齢者までということであれば、安全に使
えるような施設であるということを基本に考えて、それ以上の
ものが必要かなと思います、あとは、料金体制ですね。維持管理
できるような方向の、考え方を検討していただいた方がいいの
ではないかというのが私のご意見です。

会長 今のご意見でいくと、プールに必要なスローププラス、更衣室
等を含めて、プラスアルファの多目的ルーム、他のスペースみ
たいなものは基本的に、使うものは必要だとは思いますが、使
っていない会議室のようなものを、今あえて検討する必要性も
ないと思いますということですね。

会議室だけでは使わないけれど、フリースペースなので、会
議以外にも、例えば、ヨガとか、ストレッチとか、そういうち
ょとした教室みたいなものには使える会議室としても使える
みたいな工夫をすれば、使用したい人がいるかもしれないとい
うような点で多目的に利用できるみたいなものを、必要とする
かどうかということですね。会議室だけで利用するものとし
ては、もう必要ないというのは、何となく皆さんご理解いただ

けたと思います。

委員 多目的ルームのイメージですが、プールに来る子どももいればプールには来ないけど、多目的ルームで例えばマルシェがあるから行ってみようとかになるのではないか。あと、小さい子が雨の日に遊びに行けるスペースが向日市には、あまりないなあと思っていて、そういう雨の日に遊べるスペースを多目的スペースに整備してみて、例えばですが、木のボールのプールのようなものを置いておいてあげると、あっちは水のプール、こっちは木のプールで遊びながら、そのうちプールにも行こうねみたいに、プールを利用する人が増えたらいいなとか、プールの利用者じゃない人たちも来て、いずれプールの利用者になっていってくれて、こういうスペースがあつてよかつたなつていうふうに思ってもらえるような、そういう多目的スペースがあつたらいいなつていうふうに思います。

会長 今までも意見が出ているキッズスペースは、完全にオープンなのか、壁を作って多目的ルームみたいにするのかみたいな議論もあると思うんですが、何となく、そこまでガチガチに決めなくても、プール以外のこういったフリースペースみたいなもの、それが多目的ルームなのか、フリースペースなのかわかりませんが、乳児のプールは、無しにするけれども、そういう遊びに来ることができるようなスペースみたいなものを残すのかというようにところの議論はもう少しいただいてもいいのかなというふうに思います。

この他、採暖室や温浴設備、お風呂、あとジャグジー、このあたりをどうするかで、今後の経費、運営はかなり違ってくると思うんですが、このあたりはご意見いかがでしょうか。

委員 もともと私は、この学校のプールを併用するのであれば、プールは存続でもいいと思っておりました。そうではなくて、今のプールをどうこうするというのであれば、プールは廃止で良いという意見です。そういうことから考えると25mプールは絶対必要であると思います。それからこのスロープも、幼児から高齢者までが利用するというのを考えますと、やはりスロープは必要かなというふうには思います。あと、マルシェ等ができるスペースは、建物の中でなくても外でやったらいいのではないかと思うのでいらないと思います。それから、多目的ルームもいろんなことで使えるのであれば、それはまた検討したらいいと思います。幼児プールは、25mプールに台などを入れて底を上げれば、使えるので、別に幼児用プールを作る必要がないと考えます。採暖

室は、以前もありましたし、冬場で体が冷えたときとかいうのであれば、それはプールに付随する施設というふうに思いますのでこれは必要かなと思います。施設利用区分、施設利用料金含むは絶対必要です。キッズスペースまでは、ちょっと要らないのかなと思います。小学生が使うのであれば、幼児用の更衣室が必要だと思います。ジャグジーは、いりません。それから駐車場の料金制度導入は、必要かなというふうに考えます。図書スペースの方はいらないと思います。

会 長 その他、いかがでしょうか。

委 員 プールだけでは立ち行かないと思います。プールに上の子が入っている間、下の子と一緒にキッズルームで遊ぶとか、図書スペースで読み聞かせをすることかっている、使い方をしていないと難しいんじゃないかなと思っているので、どちらかというところ、図書スペースとかキッズスペースとか、多目的ルームと呼べるかわからないですけど、フリースペースがある方がいいのではないかなと思っています。隣の健康増進センターと共有で使えるのであれば、入浴施設も復活させたらいいのではないかなと思います。

会 長 お風呂、サウナ、ジャグジーあたりは、あればいいかもしれないですけど、多分コスト的にはかなり掛かるので、あるのと、ないのでは、大分違ってくると思います。

委 員 私の考えを一つずつ言うと、スロープはいる。他の委員が、先ほど仰ってたんですけど、もちろんたくさん人が来てということも大切ですけど、もともとプールは、費用の問題が、結局すごく大きいと思います。サウナなど、いろんなものがあればいいと思いますが、やっぱりプールを存続させる中で、学校のプールとして利用するとした上で、存続させられるんじゃないかとなったと思う。それぞれの小学校や中学のプールを直す費用を考えれば、こちらに集約することで費用を浮かせることができるというのは、やっぱり目的には大きいと思う。多目的ルームについては、言われることもすごくわかるんですけども、女性活躍センターにも立派な会議室ありますし、プールと併設するにはどうかと思います。あと児童用の更衣室ですが、小学校がプールで授業をしているときと、大人が一般の人がする時が重なるのか、重ならないのかちょっとわからないんですけど、やっぱりちょっとこのご時世子どもだけが使う更衣室は、ぜひ作っていただきたいと考えます。駐車場は、料金もちろん導入していただきたいですけど、できたら、いきなり 30 分からお金要るとかではなくて、1 時間半

までは無料とかにしないと利用が遠のく理由になると思う。

会 長 学校のプールというところを軸にすると、必要最小限の機能でというご発言だったかと思います。多分ここで満場一致とか絶対ないので、どこまで議論を重ねるかというところですよ。もう学校のプールを軸に最小限にして、もう経費を抑えて、持続可能性を高くするのも一つですし、学校以外の方々にも、プールじゃなくても、足を運んでいただけるような要素もあることで、市民が使っていただける要素を、お金を掛けないでできるだけ残すという考え方もあると思います。ここで満場一致っていうのはないと思うんですが何となく、お風呂と、サウナとジャグジーに関しては、3つは必要ないだろうというのは何となく一致しているかなというところで、例えばもう全部必要ないのか、いや最低限一つ、一つ残すとしたらこれは残すべきだろうみたいな、ご発言ももしあればお願いいたします。

委 員 健康増進センターがリニューアルされて、温浴設備が全てシャワーに変更となりました。温浴設備に関しては、プールと同じぐらい水道料金や光熱費が掛かってきます。以前のプールには、採暖室はありましたが、ジャグジーはありませんでした。ジャグジーの場合は、循環で多分いけると思うので、そんなにランニングコストは掛からないですが、温浴設備はランニングコストが高くなると思います。

会 長 温浴施設等とジャグジーで、どれぐらいのランニングコストが違ってくるのかとか、一般的な情報でいいと思うので、次回までに情報を集めていただければと思います。学校のプールとして使うというところを軸に考えたときに、多分皆さん必要ないだろうと思っているところだと思います。マルシェに関しては、この後の余剰スペースのところでも多分できるだろうということで、建物の中に、マルシェのスペースを意識してというところまでは必要ないということで、一番右の「設置、導入しないもの」に区分されるかというところで、多目的ルームなのか、キッズスペースなのか、図書スペースなのか、それを全部ひっくるめたちょっとしたスペースなのかというところについては、ここで無しというよりは、やり方によってはあるかもしれないぐらいなところで個別で1個ずつということではなくて、継続して検討していくという形でもいいのかなというふうに進捗するものとしては思っています。利用料金、駐車場料金については、ご意見いただいているとおりのので、この整備対応のところとちょっと色彩は違いま

すが、最初から皆さん第1回目の会議からいろいろとご意見いただいていたところなので、これはちょっと残すという形になるかなというふうに思います。それ以外は、幼児用プールもどれぐらいのレベルの幼児用プールなのかというところで、どの機能まで持たせたら幼児用プールというのかとか、ちょっとそのあたりの情報もいただいて、コンセプトが「幼児から」ということになっているので、幼児というコンセプトは、残しているのですが、それをどれぐらいの施設整備をすることで、幼児用プールといえるのか、というところですね。幼児が使えるプールであってほしいけれども、台とか、何かを用意すれば使えるレベルなのか、独立した形で幼児用プールを作るのか、全然それも違ってきます。あと小学生が使うというところで、例えば、小学校と中学校の大きな違いだと、小学一年生だとかなり小さいので、小学生の低学年が使う時点で、いろいろと仕様も変わってくると思います。そうなったときに、先ほどお話あった児童用更衣室っていうところ、ロッカーの高さとかというの、子どもたちも使えて、子どもたちが使っていないとき大人も使えるようにするのか、もう子どもたちだけ学校用というところでも児童用、もちろん児童の事業以外の児童も使うかもしれませんが大人は使わないっていう前提のものにするのかどうか、その併用できるようなコンセプトを持ったものがありそうな気もするので、この児童用更衣室だけという使い方の方が、実際あってどう使われているのか、兼用で使えるものがあるのかとかちょっと情報がないと、もう専用にしてくださいとかっていうのもなかなか決められないと思うので、ちょっとここに載っているものに関して、また、独立したものじゃなくて、何か効率よく使えるようなものの情報があれば違いまでいただければなというふうに思います。

委員 児童用更衣室を別に作ってほしいということについては、最近隠しカメラとかの心配がすごくあります。コストのこともありますが、児童用と大人用を分けてもらう方が良いと思います。

会長 今、中学校も子どもの数が減っているんで、学校の中学校の体育館と社会体育施設としての体育館と両方使えるっていうように、市の条例を変えて、運用しているところが今増えてきているのですが、おっしゃるように「動線」ですね。中学生が校舎の中から来る動線と一般市民の方が外から入る動線というのを、完全に分けて使っています。更衣室等が分けられるケースと分けられないケースは、もちろんあったりもするんですが、おっしゃっている学校教育施設としても使うということになるので、今までのプールとはまた違う視点の配慮というのは、必要になってくると

いう視点だと思しますので、使う時間体を完全に学校の授業があるときは、一般の方が入れないようにするのか、空いているレーンを使えるようにするのかみたいな問題も、整理をしてかないといけないので、他市の事例もあると思しますので、その辺りの情報もいただきたいなというふうに思います。

委員 今おっしゃった「小学校が使うレーンと一般の人が使うレーンを併用できるようにするのか」、「全くこの時間は学校だけですよというふうにするのか」という議論はあると思うのですが、数コース・学校用、数コース一般用というに使えるといいなどは思っています。プールに行ったけど使えないというのではなくて。

会長 ただ一方で、大人に見られたくないという思春期の子どもたちが、学校のプールの時は、先生と同じ世代しかいないのに、一般の方がいるので、プールの授業を休みたいみたいな可能性は出てくるとは思います。教育委員会の方針が、まだ全く何も決まっていないところなので、それと建物は、かなりリンクしてくるところもあるというところだと思うので、その辺りも必要かと思えます。何度も言いましたが、すべて決定する会議ではないので、方向性として、「プールは残す」、ただし、縮小して学校の施設として、それに必要な最小限の施設でいくのか、ちょっと集ってもらえるような、来ていただけるような要素は少し付加すべきじゃないかというようなところ、ただし、子どもたちに、「負の遺産」を残さない、この施設が長く、そんなに財政を圧迫しない形で、運用されていくというところが、皆さん、ベースとしては、同じお考えだと思いますので、ちょっとそのあたりのところも含めて次回、必要な情報を集めていただきたいと思えます。あとプールが縮小したときにできる余剰スペースは、多分他のところでまた考えていただければいいことではあるのですが、ちょっと関連するところもあるので、事務局から説明をお願いします。

(4) 余剰スペース

事務局 模縮小時にできる余剰スペースの整備についても、前回の会議以降に各委員から寄せられた意見がありますので、資料2の別紙11をご覧ください。余剰スペースに対する主な意見として、防災に関する整備スポーツに関する整備、今後、周辺のまちづくりがどうなるか判断できないので、まだ整備すべきではない。施設の周りにウォーキングコース、子どもの遊具といった意見もご意見が寄せられております。資料の2の12ページをご覧ください

い。前回の会議以降に各委員から寄せられた意見等、これまでの会議での意見をまとめたものになります。プールの整備と同様に、規模縮小時の余剰スペースについても、必要な整備に対してご意見をいただければと存じます。

会 長

この余剰スペースについては、私たちのマターではないのですが、例えば、子どもの遊具とかが外にできて、雨が急に降ってきて連動して中でちょっと遊べるスペースがあったらさっきお話があったようにいいよねという話もあるので、全く関係しない話でもないんですが、第1回目の会議からお話があるように、この周辺のまちづくりの内容が未確定なので、この余剰スペースを大々的に何かすぐ決まるのかということ、それを待っていると、プールもなかなか進まないみたいのところも出てくるので、全く関係しないわけではないのですが、意識もしていただきながら、最終回というところになっていくかなというふうに思います。余剰スペースのところについては、議論というよりは、ご意見もいただければと思います。

委 員

余剰スペースの方が大事だと思っています。向日市にアリーナが来るので、余剰スペースを取るか、取らないかっていうのはそのこと連動してくるので、それによってプールの形も変わってくるし、京都府が同じようなスポーツ施設を作るので、そこがどれだけのものが作ってくるかが分からないと、同じような整備をしたものが2つになると不要なので、ここが一番大事な方向性だと思う。同じようなスポーツ施設が来るから、やっぱり連動しないといけない。

会 長

私たちは、敷地全体の議論をしないといけないのか、この委員会は、プールのあり方なので、例えば、プールを縮小したときに別紙2に書いているイメージの25mプールを確保するだけの場合と、幼児用プールを作った場合で、余剰スペースが違ってきます。今のお話でアリーナのお話まで入ってくると、私たちは全く情報がここでは共有されていないので、基本的には、できるだけプールは縮小で、もうシンプルで最小限にしとくと、余剰スペースはたくさんできるので、これからいろんな展開があるところに対応していけるという考え方はあると思うんですね。次回例えば、幼児用プールをしっかりしたものを作るとなると余剰スペースは、おのずと少なくなりますし、25mプール以外に、例えば多目的ルームとか、オープンスペースなんかを作ると、余剰スペースも少なくなりますし、余剰スペースのことも、もちろん考えないといけないんですけども、余剰スペースの今後のことに

なると、また別の会議体での話になるかなと思います。

委員　私が言っているのは、余剰スペースの使い方じゃなくて、プールの形は、アリーナが決まると必然的に変わってくるということです。

会長　今、ご説明させていただいた別紙2のプールの規模のイメージを持っていただければ、まだもう1回ありますので、幼児用プールについても話したように、幼児用プールを単独で作るのか、幼児も使えるような25mプールを作るのか、ちょっとそのあたりのところの、今私たちが持ち合わせている情報で、多分これ以上議論しても進まないと思うので、今おっしゃっていただいた余剰スペースをできるだけ作った方がいいという、この会議の方向性として、一致すれば、おのずと整備も見えてくると思いますので、余剰スペースはとても重要です。皆さんのお考えとして、余剰スペースが少なくなったとしても、プラスアルファの機能は、プールに設けるべきというご判断をされるのか、アリーナも来るし、やっぱり余剰スペースもどうなるかわからないので、とりあえず、今回は学校のプールを軸として、プラスアルファ幼児と幼児から高齢者まで一般の方も使えるようなプールを整備して、余剰スペースをできるだけとっておいて、いろんな形で展開できるという、別のところで議論する時に、余剰スペースをたくさん残しておくという、そういう考え方を軸にするっていうのも一つだと思います。

先ほだのご発言としては、余剰スペースができるだけ残しといた方がいいということですか。

委員　違います。余剰スペースは、あってもなくても良い。府と市で同じものを作らないでほしい。

委員　アリーナはまだ先の話で、プールの話は、今議論している話ですよ。

委員　先の話かもしれないですけど、同じものを作ってしまうとよくない。

会長　例えば、子どものキッズスペースとか、多目的ルームなどもあんのだったら、別にプールで作る必要ないってことですよ。

委員　学校のプールを作るっていうことは、プールだけの費用じゃなくて、小学校のためのプールの費用も被せてもいいんじゃないか

など思う。費用は、そんなに厳しくなくて、もうちょっと広がるんじゃないかなと逆に思ったりするんですが、どうでしょうか。

会 長 市としては、そこはそうですねとなかなか言われたいかもしれないですが、でも本当に必要なものは必要ですし、ここで何か、その財政のことを気にしすぎて、後から追加しないといけないところが、一番コスト的にはかかることになるので、ちょっとそのあたりについてはおっしゃるように、学校のプールを改修しないということになっていけば、その予算っていうのもわかるので、例えば、児童用の更衣室の話もされましたけど、学校のプールとして使うのであったら、学校にあったような施設をそこに残すというのはお金がかかってもそれをやらなければいけないことになると思いますし、ちょっと教育委員会にも確認をしていたら、小学生にあったプールの規格というのもあると思うので、財政難だからということだけではなくて、今お話があったように、子どもたちのために必要な経費をうまく活用するということで、学校の施設として、機能するものにし、必要なものにはお金をきちんとかけるっていうところについては確認しといてください。

事務局 経費の分で、難しい問題ではあるのですが、学校プールとして必要な整備は、しなければならぬと思います。市としてはあくまでも最小限の経費で、最大の効果をどう得られるかっていうところが一番課題にしているところなので、ご理解いただければと思っております。

会 長 向日市さんの場合、駅周辺の再開発など、周辺の情報が溢れすぎていて、そういった話も、かなり長いスパンになるのですが、それを待ってられないみたいなのもあったりしつつ、ただ、余剰スペースの話もそうですが、あの時はこうしておいたら、ここはもっとこんなふうに使えたのにみたいなのは、できるだけ避けたいというのは皆さんも一緒だと思います。第1回の会議が始まった時は、プールは絶対残してほしいという方と、いやもうプールはもう必要ないのではないかというところの議論から始まって、方向性として、プールが縮小して残すというところについて、前回までにご意見をいただいて、具体的なお話に入ってくると、また意見が分かれてきていると思います。この会議は、あり方検討会議なので、具体的な方向性などが必要であれば、また新たに会議体が立ち上げられると思いますが、その前の、どんな建設、運営手法でやっていくのかというようなところの目処みたいなものは、次回の会議で、おおよそイメージがつくような形

にはしていきたいと思いますので、皆さんも次回までに、こういう情報がいただきたいというようなことをお寄せいただければと思います。小学生が使うプールに必要な機能とか、必要な整備というのは、教育委員会と調整をしていただければと思います。

(5) その他

次回会議について、6月下旬頃を予定していることを報告

3 閉会